

# 清和小校区の概要

## ■ 地理的環境 ■

本校区は、鹿児島中央駅から南へ7km、急速に発展を続ける南鹿児島の起点ともいべき位置にある。永田川左岸の広々とした平地と、シラス土壌のゆるやかな傾斜地が、南北約1km、東西約3kmにわたり細長くのびるように市街地を形成している。

本校は、その校区の中央よりやや西方に位置し、学校の周りは住宅が増えてきているが、水田や畑も残っている。南に永田川・薩南山地、東に錦江湾・大隅半島を眺望でき、学校環境には、きわめて恵まれている。

## ■ 歴史的背景 ■

本校校区においては、薬師堂遺跡、柿木田遺跡など永田川流域の低湿地をのぞむ低台地に弥生文化の遺物を出土し、古くから水田地帯として開かれてきたことをうかがうことができる。中世になると谷山郡の郡司・谷山氏の荘園として、のち島津氏の支族、山田氏の所領として開発されたが、本格的耕地整理は明治40年代以降で、谷山の穀倉地帯として発展してきた。

また、永田川河口付近は江戸中期以降、明治中期まで港で、明治20年頃以降商業の盛んな地となった。昭和42年になると笹貫バイパスの工事が始まり、さらに中山バイパスが開通し、校区西部の水田地帯も急速に住宅地へと変化し、鹿児島市のベッドタウンとして、その機能を果たすようになってきている。

## ■ 社会的環境 ■

本校は、その校区の中央よりやや西方に位置し、学校の周りは住宅が増えてきているが、水田や畑も残っている。南に谷山の繁華街と住宅地の両方を校区とし、小松原二丁目、東谷山二丁目・三丁目・四丁目・五丁目・六丁目、上福元町、清和一丁目・二丁目、中山町の一部から成っている。人口は、校区の東側に集中し、西側は柳橋、明成町内会をはじめとして、住宅も増え、さらに発展しつつある。

また、交通も校区内を私鉄バスが走り、谷山電停・谷山駅も近くにあり、きわめて便利である。公共的機関としては、南警察署、郵便局、病院、銀行がある。

